

『屋上の男』 作…ポチ子

勢いよくドアを開ける

刑事1 「ちょっと、待ちなさい！」

男 「なっ!? 誰だよ、お前ら! くるな、俺は死ぬんだ！」

刑事1 「き、きみ、早まった真似はやめるんだ！」

男 「うるさい! 俺に指図するな。」

刑事2 が屋上に入ってくる

刑事2 「先輩! この男の身元が分かりました! 名前は会田孝雄。

28歳、会社員。昨日の夜、長年付き合っていた彼女の
浮気現場を目撃し、やけになったようです。先ほど、男
から死んでやるとメールが来たと、元カノから通報があ
りました。」

刑事1 「そうか、ご苦労。」

刑事2 「それにしてもタイミングが悪いですよ。麻薬グループ
のアジトを見張っていた最中にこんな現場に遭遇しちゃ
うだなんて。」

刑事1 「まあ、そういつてやるな。」

男 「さつきから、なにコソコソ話してるんだよ！俺は、本気だぞ！止めるんじゃないか！」

刑事1 「（咳払い）落ち着くんだ。確かに、君の心情は察する。でも、君はまだ若いじゃないか！これから楽しいことがたくさんあるはずだ。たった一人、振られたくらいで・・・」

男 「振られたくらいで？俺は真剣に結婚も考えてたんだ。指輪を用意して、バラの花束を持って彼女の家に行ったら・・・」

俺の気持ちがお前になんか分かるものか。」

刑事2 「それは、災難ですね・・・」

男 「仕事でお荷物扱いされても、その日のために俺は頑張ったのに・・・なのに、なのにあいつは！もういい、死んでやる！」

刑事1 「まて！待つんだ。これから、もっといい女性に出会える！俺が保証する！」

男 「そんなわけないだろ！こんな、仕事も出来なくて、顔も悪くて、デブで、運動神経もない俺なんか、これから一生独り身だ！」

刑事2 「確かに俺だったら彼氏にしたくないけど。世の中にはいろんな好みの人がいるから、ワンチャンあるって。」

男 「死んでやる！」

刑事1 「おい、なに刺激してるんだ。お、おい、待つんだ！」

男 「お前らも思ってるんだろ？みじめな奴だって。」

刑事2 「うん、若干。」

刑事1、刑事2の頭を殴る。

刑事1 「この、バカ！そ、そんなことは思っていない。君はいい

男だ！」

男 「嘘をつくな！俺の事、みじめで、ゴミくずで、甲斐性なしで、短足で、豚鼻で、哀れな、全世界の鼻くそを丸めて燃やした塵を飲み込んだ後のクソくらいに思ってるんだろ？」

刑事2 「さすがに、そこまでは誰も思っていないんじゃないか？」

男 「うるさい、本当に死んでやる！」

無線から音が流れる

刑事2 「はい、コチラ第2班。え？麻薬グループが逃亡!?はい、

分かりました。すぐ向かいます！先輩、麻薬グループが

動き出したようです。」

刑事 1 「なんだって!? すぐ向かうぞ!! あ、悪い、君! 続きは戻っ

てからで! それまで待っていてくれ!」

男 「は? 戻ってきてからって。」

刑事 2 「先輩、早く!」

刑事 1 「すまん、急いでるんだ。すぐ戻るから!」

男 「え、ちょっと。えー・・・。」

— 終わり —